

2024年4月10日

## 2023年度 ACL 研究報告

プロジェクト代表者氏名・所属： 福田大輔 総合文化政策学部教授

研究プロジェクト名称：フランス精神分析の歴史研究（セルジュ・ルクレールについて）

予定とは異なり、9月ではなく、2月のフランス滞在のために、プロジェクト研究費を費やした。研究費はほぼ旅費に充てられたが、当初の予定とは異なり、友人宅に宿泊するなどホテル代が浮いたため、その分は書籍の購入に充てた。下記が旅行の日程である。

- 1月28日：羽田空港出発、パリ到着。
- 1月29日から2月7日まで：フランス国立図書館にて文献調査、
- 1月31日：精神分析家 Daniel Roy 氏へのインタビュー
- 2月3日：École de la Cause Freudienne 学会
- 2月7日：パリ出発
- 2月8日：羽田空港到着

ルクレールについてのオーラル・ヒストリーに向けてのインタビューについては Pierre-Henri Castel 氏の都合が合わなかったため実現しなかったが、École de la Cause Freudienne (ECF) の会員である Daniel Roy 氏とのインタビューに成功した。これがすぐにルクレールについての論文には繋がらなかったが、日本に精神分析の実践を導入するうえで大変役に立つアドバイスをもらう機会が得られた。このインタビューによって、New Lacanian School (NLS) という精神分析団体の会員になったという意味でも収穫のある滞在となった（ECF はフランスの団体、NLS はヨーロッパ以外の団体を指す）。

ルクレールについての論文は2023年度中に紀要にアプライする予定だったが、さまざまな要因が重なり、下書き程度のものが仕上がったくらいである。それについては、2024年度にあらためて「総合文化政策学」に投稿する予定である。成果物としては、上記の下書き2本を提出する。

福田大輔